

科目名 (科目番号)	臨床薬理学 (111211)	教員名 幸田 幸直	学科等	医療技術	必修	履修年次	2
			曜日・時限等	時間割表参照		単位数	2
			オフィスアワー		月・1 2	B206研究室	
授業概要	臨床薬理学とは「薬物の人体における作用と動態を研究し、合目的薬物治療を確立するための科学である」と定義される。具体的には臨床で使用される薬剤の作用機序、適応などを中心に学ぶ。具体的には薬理作用・用量反応性・受容体に影響を与える因子について学ぶ。さらに呼吸器系薬剤（気管支拡張剤・鎮咳薬など）、循環器系薬剤（強心剤・血管収縮または拡張薬など）、利尿薬、脳神経系薬剤、鎮静薬、鎮痛薬、抗生物質などについて学ぶ。						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	薬理学を学ぶにあたって	薬理学とはなにか、薬による病気の治療などについて理解する。				
	2	薬理学の基礎知識 I	薬が作用するしくみ、薬の体内の挙動(薬物動態学)、薬物相互作用などについて理解する。				
	3	薬理学の基礎知識 II	薬効の個人差に影響する因子、薬物使用の有益性と危険性、薬と法律などについて理解する。				
	4	抗感染症薬	感染症治療に関する基礎事項、抗感染症薬各論、特殊な感染症の治療薬、感染症の治療における問題点などについて理解する。				
	5	抗がん薬	がん治療に関する基礎事項、抗がん薬各論などについて理解する。				
	6	免疫治療薬	免疫系の基礎知識、免疫抑制薬、免疫増強薬・予防接種薬などについて理解する。				
	7	抗アレルギー薬、抗炎症薬	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬、関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬、片頭痛治療薬などについて理解する。				
	8	末梢での神経活動に作用する薬物	神経系による情報伝達、自律神経系作用薬、交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬などについて理解する。				
	9	中枢神経系に作用する薬物	中枢神経系のはたらきと薬物、全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬、気分障害治療薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬などについて理解する。				
	10	心臓・血管系に作用する薬物	抗高血圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液に作用する薬物などについて理解する。				
	11	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する薬物、生殖器・泌尿器系に作用する薬物などについて理解する。				
	12	物質代謝に作用する薬物、皮膚科用薬、眼科用薬	ホルモンとホルモン拮抗薬、治療薬としてのビタミン、皮膚に使用する薬物、眼科用薬などについて理解する。				
	13	救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬	救急に用いられる薬物、急性中毒に対する薬物、漢方医学の基礎知識、漢方薬各論、消毒薬などについて理解する。				
	14	輸液製剤・輸血剤	輸液製剤、輸血剤などについて理解する。				
	15	業務に必要な関連知識	薬に関する単位、処方せん、添付文書などについて理解する。				
成績評価の方法・基準	期末試験(100%)						
教科書	系統看護学講座 薬理学			吉岡充弘、泉 剛、井関 健、横式尚司、菅原 満 著		医学書院	
参考図書	臨床薬理学			日本臨床薬理学会 編集		医学書院	
教員からのメッセージ	基本的な重要事項は反復して学習し、知識の応用が効くように、系統的理解に努めてください。プリントを併用するようにしますので、活用してください。						